



2026年
10月
vol. 98

令和8年(2026年)
10月20日発行

発行所 ● 日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200

発行月 ● 4月、7月、10月、1月

<https://www.yakuren.jp>

広報資材のご紹介と活用方法

会議や研修会で受け取った名刺型資料や、職場で目にするポスター。皆さまは、その内容をご覧になったことがありますか。

神谷まさゆき中央後援会では、神谷まさゆき参議院議員について知っていただくため、さまざまな広報資材を用意しています。議員の経歴や考え方、活動を確かめる身近な情報源として、ぜひお役立てください。

「名刺型資料」は、会議や研修会などでお配りする討議資料です。神谷議員のプロフィールなどを掲載していますので、表面の写真や名前だけでなく、裏面の情報にも目を通してみてください。詳しく知りたいときは、掲載された二次元コードやSNSの案内もご覧ください。さらに情報を得るための入口としてご活用いただけます。

また、役員等の名刺の裏面にも、神谷議員に関する情報が掲載されている場合があります。名刺を受け取った際には、裏面にもご注目ください。お手元に残しておくことで、後から情報を確かめたいときにも役立ちます。

休憩室や会議室などで見かける「室内用ポスター」や、研修会・総会の会場に掲示される「室内用布ポスター」も、広報資材の一つです。写真や名前に加え、掲げられた言葉にも目を向けてみてください。ポスターを見て気になったことを、お手元の資料や動画で確かめるといった使い方もできます。

紙の資料だけでなく、動画も用意しています。会合などで視聴する機会がありましたら、神谷議員本人の言葉で語られる内容にも耳を傾けてください。何を課題と捉え、どのような取り組みについて説明しているのか。関心のある点を意識してご覧いただくと、さらに知りたいことや尋ねたいことも整理しやすくなります。

さらに、三つ折りパンフレットも、令和8年10月から12月頃に作成を予定しています。お手元に届いた際には、ぜひ内容をご覧ください。それぞれの資材を、継続して活動を知るきっかけにいただければと思います。

広報資材は、受け取るだけでなく、読んで、見て、内容を確かめていただいてこそ意味を持ちます。まずは一枚の資料に目を通す、一つの動画を見るところから始めてみませんか。疑問に感じた点があれば、配布した方や後援会に尋ねてみてください。ご自身で知り、考えるための資料として、広報資材の積極的な活用をお願いいたします。



重点地区訪問始動

次期参議院議員選挙まで2年を切り、神谷まさゆき中央後援会では、神谷まさゆき参議院議員の活動を紹介する「重点地区訪問」を開始しました。これは、皆さまの職場などを訪問し、活動内容を直接お伝えする取り組みです。

組織内候補として、薬剤師の声を国政に届ける役割を担っている神谷まさゆき参議院議員は、現職の参議院議員として活動する一方、各地域を訪問し、交流の機会を設けたいと考えています。『どのような課題に取り組んでいるのか』『現場の意見はどのように届けられるのか』な

ど、日頃感じている疑問をお尋ねいただき、今回の訪問を議員の活動や考え方を知る機会としていただければと思います。

今回の重点地区訪問は、13都道府県を対象とし、薬局への訪問を中心に、小規模な集会や若手薬剤師との交流などが計画されています。薬剤師だけでなく、事務職員など、職場で働く皆さまにも活動内容をお伝えする予定です。地元の支部長や役員が同行し、神谷まさゆき参議院議員本人は国会議員としての活動との調整がつく場合に参加します。

員の活動を詳しく知る機会がないという方もいらっしゃるでしょう。専門的な知識や、あらかじめ整理した意見がなければ話せないということではありません。日々感じていること、説明を聞いても分からにくいことなど、身近な疑問からお話しいただければと思います。

また、説明を聞くだけではなく、活動の成果や今後の課題について質問していただくことも大切です。何に取り組み、何が進み、何がまだ実現していないのか、そうした点を具体的に確認することが、政治活動を理解し、ご自身で考えるための材料になると思います。

政治活動への関心や考え方は、人によって異なります。説明を聞くことと、支持を表明することは別のものです。こ

れまで接点がなかった方も、活動内容を確かめ、ご自身の考えで受け止めていただければ幸いです。

神谷まさゆき中央後援会では、神谷議員の政治活動を支えるため、訪問などを通じた活動の強化を進めています。その取り組みを皆さまにお伝えする際には、一方的に説明するのではなく、質問や異なる意見にも耳を傾けることを大切にしたいと考えています。訪問は、皆さまの声に触れ、活動のあり方を考える機会でもあるからです。

お忙しい日々の中での訪問となりますが、日程や対応については、各地域の案内をご確認ください。皆さまにとって、議員の活動をより身近に知り、疑問や意見を交わす機会となることを願っています。

風力計

日本薬剤師連盟
総務 和泉 啓司 郎

2040年を見据えた 地域医療と薬剤師の役割

令和8年度診療報酬改定は、人口減少と高齢化が同時に進行する「2040年問題」を見据え、持続可能な地域医療提供体制の構築を目指すものである。医療需要が増加する一方で、医師や看護師をはじめとする医療従事者の不足が深刻化する予測される中、薬剤師にはこれまで以上に大きな役割が期待されている。

病院薬剤師は病棟において持参薬確認、処方監査、副作用の早期発見、処方提案、服薬指導などを通じて医療安全を支えている。しかし従来の評価では、中小病院が病棟薬剤業務を継続することが経営的に容易ではなかった。今回の病棟薬剤業務実施加算の見直しは、薬剤師の専門性と医療安全への貢献を適切に評価する重要な一歩である。

一方で、地域による薬剤師偏在は依然として大きな課題である。限られた人材を有効に活用するためには、病院から転院・転所・薬局・在宅を通じた連携強化に加え、電子処方箋や電子カルテ情報共有サービスなどのIT基盤整備が不可欠である。また、高齢化の進展に伴い増加するポリファーマシーへの対応も重要であり、薬剤師には減薬支援や継続的な服薬管理が求められている。さらに、AIを活用した処方監査支援や副作用予測、業務効率化を進めることで、薬剤師は対人業務や高度な薬学的管理により多くの時間を充てることが可能となる。

2040年に向けて求められるのは、薬剤師を単なる「薬を扱う人」ではなく、「薬物療法と医療安全を支える専門職」として活用する視点である。偏在対策、デジタル化、AI活用を推進しながら、多職種と協働して地域包括ケアを支え、薬剤師の専門性を最大限に発揮できる環境を整備することが、持続可能な地域医療の実現に不可欠である。



令和8年度 第1回薬剤師フォーラム

フォローアップZOOM会議開催される！

令和8年9月12日、第1回薬剤師フォーラムフォローアップZOOM会議が開催された。小屋敷副幹事長より開会宣言、川田幹事長より挨拶があり、続いて神谷まさゆき参議院議員よりご挨拶をいただき、本田あきこ参議院議員からはビデオメッセージを頂戴した。

その後小屋敷副幹事長から、「都道府県ごとに参加者が立てた計画について、現在までに実施できたこと、できていないこと、その要因を考えて、修正したい点について、次回フォーラム参加者に引き継ぐためにまとめるように」との趣旨説明が行われた。

同会議は、昨年10月19日に開催された「薬剤師フォーラム」の参加者が対象であり、フォーラムのテーマである「薬剤師議員が必ず当選できる組織作りのための方法」について計画の進捗状況、実施にあたっての問題点、計画を修正したい部分、次回参加者に引き継ぎたいこと等を12のグループごとにブレイクアウトルームに分かれSGDを行った。

最後に、大澤副会長から「今回SGDでまとめた内容をしっかり次回参加者に引き継ぎ、目標に向け活動していただきたい」と挨拶があり、会議は閉会した。



SGD グループ



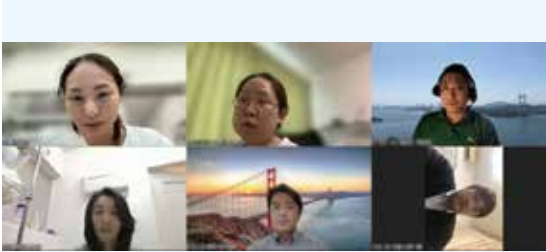
グループA
青森県・岩手県・秋田県



グループB
宮城県・山形県・福島県



グループC
茨城県・栃木県・群馬県・山梨県



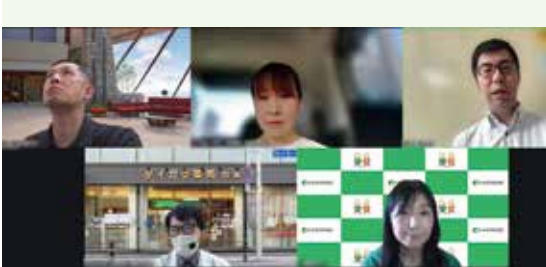
グループD
埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都



グループE
新潟県・富山県・石川県・福井県・長野県



グループF
岐阜県・静岡県・愛知県・三重県



グループG
大阪府・京都府・兵庫県



グループH
滋賀県・奈良県・和歌山県



グループI
鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県



グループJ
徳島県・香川県・愛媛県・高知県



グループK
福岡県・佐賀県・長崎県・大分県



グループL
熊本県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

令和8年度

臨時評議員会が開催される



令和8年9月30日、AP日本橋において『令和8年度臨時評議員会』が開催された。

司会の福森常任総務の開会の辞に続いて、鈴木英敬衆議院議員による『地域から国政へ』の特別講演が行われた。川田幹事長による略歴の紹介の後、先ず鈴木議員ご本人の知事時代の選挙戦から現在の総務副大臣兼内閣府副大臣就任するまでをお話いただいた。この中でご自身が政治家を志した体験から、新たな薬剤師議員を生み出すためには、地域コミュニティの中から人選をし、その人材を育成・応援できる組織を作り、その目標に向かって突き進む本人の日々の努力が必要であること、また、選挙戦におけるSNS戦略が重要であること等のお話もあり、今後の選挙戦に必要な知識を参加者全員で共有することができた。

講演終了後、岩月会長の挨拶に続き、本田あきこ参議院議員、神谷まさゆき参議院議員よりご挨拶をいただいた。本田先生のご挨拶では、文部科学部会長就任と全国の地方選挙の状況が報告された。神谷先生のご挨拶では、沖縄県知事選挙への協力に對してのお礼と共に、ご自身の活動報告と、次期選挙戦に向けての意気込みと決意が語られた。また、当日公務により出席が叶わなかった、とかしきなおみ衆議院議員並びに藤田洋司衆議院議員からいただいた祝電が披露された。

会議では、司会者提案により仮議長に東京都の永田評議員が指名され、出席者数が評議員総数の3分の2以上であることが確認され、会議成立が宣言された。次に、議事録署名人2名の指名の後、議長・副議長の選出が行われ、議長には佐賀県の佛坂評議員、副議長には山形県の岡寄評議員が満場一致にて選出された。その後、議長・副議長の進行のもと、執行部による『重要事項の経過報告』として、原口副会長より『政治課題について』、各担当役員から『会務報告について』説明された。

10分間の休憩をはさみ、『報告並びに議案説明』として、丹羽副会長より『令和7年度会務並びに事業報告』について、加茂副会長より『令和7年度収入支出決算承認の件』が説明された後、『会務並びに会計監査報告』が内野監事より報告された。その後、質疑応答にて福島県の長谷川評議員、広島県の豊見評議員、秋田県の安田評議員、愛知県の稲本評議員より質疑があり、川田幹事長、原口副会長がそれぞれ答弁し、採決では『令和7年度収入支出決算承認の件』が賛成多数で提案通り可決承認された。

可決承認後協議に入り、『神谷まさゆき中央後援会活動の件』について、川田幹事長より得票目標数が説明され、『支部訪問』『名簿収集』『広報・ネットメディア』『支援団体』『薬学生対策』等につき、各担当役員より活動計画が説明され、質疑応答の後、丹羽副会長からの閉会の挨拶で臨時評議員会を終了した。

〈令和8年度〉
日薬連盟ブロック協議会開催予定一覧

開催日時	ブロック	会 場
8月22日(土) 13:00～15:00	東海	愛知県薬剤師会館2F あいやくホール
9月26日(土) 15:30～17:30	九州	レンブラントホテル大分2F 二豊の間
10月31日(土) 13:30～16:00	関東・東京	明治屋ホール
11月3日(火) 13:00～15:30	北陸信越	ホテル信濃路 (ウェブ併用)
12月6日(日) 13:30～16:30	北海道・東北	ホテルJALシティ仙台
12月13日(日) 13:00～16:00	四国	高松国際ホテル「玉藻の間」
12月13日(日) 14:00～16:00	近畿・大阪	草津商工会議所 多目的室2
12月20日(日) 10:00～12:30	中国	セントコア山口

令和8年度

日本薬剤師連盟 東海ブロック協議会開催

令和8年8月22日、愛知県薬剤師会館において、「令和8年度日本薬剤師連盟東海ブロック協議会」が開催された。森道成愛知県薬剤師連盟副幹事長の司会のもと、開催地を代表して川邊祐子愛知県薬剤師連盟会長のご挨拶に続き、岩月

会長より挨拶があった。
会議では、日本薬剤師連盟からの報告として、原口副会長より「日本薬剤師連盟の活動報告」、澤井常任総務より「直近の政治課題」について説明が行われた。続いて協議・情報交換では、大澤副会長より「組織強化・会員増強」について、丹羽副会長より「神谷まさゆき後援会活動の方針が報告され、東海ブロック各県薬剤師連盟役員より「支部長等による薬局訪問の進め方」や「行政・都道府県議会・知事等へのアプローチに関する情報交換」、来年度政策要望に向けた現場課題・意見の集約」について報告された後、意見交換が行われた。



また、会議後半には本田あきこ参議院議員、神谷まさゆき参議院議員が到着され、ご挨拶とともに国政報告をいただいた。
最後に、藤本修嗣三重県薬剤師連盟会長より閉会の挨拶があり、会議を終了した。

オレンジ日記

参議院議員・薬剤師 本田顕子



“薬剤師のチカラ”

沖縄県知事選挙で当選された古謝げんたさんが9月30日付で沖縄県知事に就任されました。初の「薬剤師知事」誕生は、中心となって後援会活動を盛り上げてこられた沖縄県薬剤師連盟の皆様は元より、私を含め全ての薬剤師にとって嬉しい出来事となりました。ご就任を心からお慶び申し上げます。

高市内閣が昨年10月に発足してから1年が経過し、9月17日には第2次高市改造内閣が発足しました。

それに伴い自民党の人事も固まり、参議院自民党政策審議会の副会長を拝命しました。通称「政審」と呼ばれ、政務調査会(いわゆる「政調」)が政策の調査・立案から審査に至る党内意見を集約する機関であるのと同様、参議院自民党にて政策に責任をもつ機関で、2021年から2022年にかけて藤井基之先生が会長を務められました。

また、「政調」においては文部科学部会長に任命されました。

共に政策を司る役職ですので身の引き締まる思いですが、党においてこうした役割を担うことができるのも、昨夏の参院選、今年の衆院選そして今般の厳しい沖縄県知事選を通して“薬剤師のチカラ”が党に評価されてのことと考えております。日本薬剤師連盟をはじめ全国の薬剤師の皆様に感謝し、責務を果たすべく全力を尽くしてまいります。

第222回臨時国会では、飲食品の消費税率を現在の8%から1%に2年間限定で引き下げる法案を巡る国会審議が中心になると見込まれています。引き続き神谷まさゆき先生とともに、“薬剤師のチカラ”を発揮してまいります。

政幸だより

参議院議員・薬剤師 神谷政幸



厚生労働大臣政務官を退任しました

第二次高市改造内閣の発足に伴い、厚生労働大臣政務官を退任いたしました。上野賢一郎厚生労働大臣のもと、労働、福祉、年金を担務として約1年に亘る331日間、多くの皆様にお支えいただきその職務に取り組んでまいりました。

政務官の公務としては、官邸での大臣政務官会合出席や、国際交流として4か国より来訪された大臣級の方々と対談し意見交換を行いました。

その他、石川県、福岡県、鹿児島県(WEB)、東京都で行われた地方版政労使会議や、ドイツでの日独高齢化シンポジウムやスイスでのWHO総会をはじめ、各地で開催された様々な会合に政府代表として足を運びました。

とりわけ、ハローワーク墨田視察時には医療・介護職も含めて丁寧に寄り添った徹底的なサポートによる取組みを拝見しました。また後日、臨時全国職業安定部長等会議において医療・介護・保育分野を支える人手不足対策を全国の職業安定行政の責任者に対して実施を指示・徹底いたしました。現時点では一部ですが、看護職に一定の効果を上げていると聞いています。薬剤師の求人・求職活動にも効果的な取組みとなることを期待しています。

これらの経験を活かして厚生労働行政を更に前に進められるよう今後も精進いたします。



政務官退任時の写真

編集後記

災害時の備えについて思う事

令和8年に入り、度重なる災害により被災された皆様におかれましては心よりお見舞い申し上げます。

日本は毎年のように激甚災害にみまわれています。

各家庭での防災意識は高まっていますが、日常的に服用しているお薬まで気に留めている方は意外に少ないように思います。電子化が進む中でお薬手帳のツールも変化していますが災害時には何が起きるかわかりません。

停電だけでなく、インターネットが使用できない状況も過去の事例として報告されています。確かに電子版お薬手帳やマイナンバーカードによる服用歴の参照は簡便ですが、いざという時には紙媒体のお薬手帳が役立つことを改めてお伝えしたいと思います。

来局した方とお話ししていてもそうですが、地域のコミュニティの中でもお薬手帳本来の役割や大切さを正しく理解していない方が多く見受けられます。

電子版お薬手帳やマイナンバーカードだけでなく紙媒体のお薬手帳を併用していただく事で緊急時の診断や薬のチェック、投薬に役立つことを理解していただけるような啓発活動が必須だと痛感しています。

イベントでのお薬相談だけでなく普段からお薬手帳の大切さを伝えるべきだと考える今日この頃です。

(M・K)

広報委員

原口 亨、小屋敷淳子
澤井 康行、千葉 恵子
和泉啓司郎、熊倉 明子
中森 慶滋

